

**アメリカ: 民間機関による対イラク戦の三つのシナリオとその影響**  
(2003年第1四半期に戦闘開始)

	実現確率	シナリオの内容		成長率見通し(%)	
		戦闘状況	原油価格	2003年	2004年
(戦争回避の場合)	—	—	03年は20ドル程度で推移	2.6	3.6
1. 短期終結シナリオ	40—60%	期間: 4～6週間 ・フセイン政権は崩壊 ・大量破壊兵器によるイスラエル、米軍への損害なし ・中東域内の産油施設に損害なし	03年Q1に30ドル台に上昇 その後Q3までに20ドルに下落 ・イラクの原油生産は3ヶ月間停止 ・他のOPEC諸国がイラクの減少分を代替	3.1 (0.5)	3.2 (-0.4)
2. 中間シナリオ	30—40%	期間: 6～12週間 ・イラクで予想以上の軍事的反撃 ・大量破壊兵器によりイスラエル、米軍に限定的な損害 ・中東域内の産油施設に限定的損害	03年Q1に40ドル程度に上昇 その後04年初までに30ドルに下落 ・イラクは原油を6ヶ月間供給停止 ・湾岸産油国は生産増加を抑制	0.9 (-1.7)	3.6 (0.0)
3. 戦闘長期化シナリオ	5—10%	期間: 3～6ヶ月間 ・イラク軍の抵抗長期化 ・大量破壊兵器によりイスラエル、米軍に大きな損害 ・中東域内の産油施設に壊滅的打撃	03年Q1には80ドルに達する その後、04年平均で40ドルの水準 ・イラクは原油を03年を通じて供給停止 ・他の中東諸国でも大規模な生産停止	-1.9 (-4.5)	4.5 (0.9)

(出所) 米戦略国際研究センター(CSIS)コンファレンス資料(02年11月)をもとに内閣府作成

(注) 1. 戦略国際研究センター資料は、短期終結～戦闘長期化の各シナリオにおける成長率見通しを戦争回避の場合からの乖離幅で示している。各シナリオの成長率は、戦争回避の場合としてOECD“Economic Outlook”(02年11月)を採用し、乖離幅を内閣府において加算したもの。(乖離幅はカッコ内に表示)

2. 成長率への影響の試算は、マクロエコノミックアドバイザーの計量モデルを用いて試算されている。